

新建新聞ブリッジ

BRIDGE

12/25 No.017

「ゆるキャラ」と建設

インフラを支える(?)マスコットたち。



群馬県建設業協会 くんケンくん



[建設業と学生をつなぐ架け橋]

2019年12月25日(水) 第017号
発行所: 新建新聞社
協力: 長野県建設業協会

Main Bridge

建設に関わるゆるキャラたち



くまモンやふなっしーなど、地域を盛り上げる「ゆるキャラ」たち。実は建設業にもこうしたゆるキャラは存在する。そしてもちろん「ゆるくない」キャラも。彼らだって、インフラを支えている……ハズ。

Points Of View

プロフに建設のこだわりアリ



外見だけでなく、プロフィールにもこだわりがある。というか、むしろプロフィールを読むとより「建設らしさ」が伝わるキャラクターも多い。

...Postscript

まちで目にするキャラクター

建設企業が展開するキャラクターたち。今回はまちやTVで目にしたことがあるだろう有名キャラにも登場してもらった。きっと見れば「あ、知ってる！」と思うはず。



Near Future

建設業がつくる近未来

「国際ロボット展2019」を取材し、建設関連のロボットや新技術を集めてきた。建機に触覚センサーをつけたり、ロボットを遠隔操作したり。未来はもうすぐそこだ。



Main Bridge

建設に関わるゆるキャラたち

「ゆるキャラ」とはもちろん、ゆるいキャラクターのことだ。マスコットとして地域に根差し、主にPRなどの活動をしている。

有名どころだと「くまモン」や「ふなっしー」だろう。毎年開かれている「ゆるキャラグランプリ」では、2019年は長野県の「アルクマ」がグランプリを受賞した。

多くは県や市町村など「まち」を代表するキャラクターたちだが、建設業を見てみると、ちゃんと各

地にゆるキャラたちが存在する。企業を代表した格好のゆるキャラも多いが、今回注目したいのは各地の建設関連団体のゆるキャラだ。地域ならではの個性としてゆる〜く漂っている点が見どころだろう。

県の建設業協会が全国初ゆるキャラとなったのは群馬県の「ぐんケンくん」建設業協会の新人研修会や道路の開通式などに参加するだけでなく、群馬マラソンにも

登場する。積極的な活動が特徴だ。

その「ぐんケンくん」は、積み木を積み上げていくようなイメージの見た目になっている。ものづくりの仕事である建設業としての意味が込められているようだ。

「ぐんケンくん」に代表されるように、やっぱり気になるのはゆるキャラたちの見た目。その仕事の一端を、彼らの外見が端的に表していたりする。ちょっと見てみよう。

たとえば全国生コンクリート工業組合連合会・全国生コンクリート協同組合連合会(全生連)のイメージキャラクターである「なまリンちゃん」。働き者のアリの姿をしつつ、コンクリートミキサー車のドラムがモチーフとなっている。

愛知県土地家屋調査士のマスコットキャラクターの「きょうかい君」と「あいちゃん」は、土地の境界を示す「境界杭」の姿だ。ちなみに境界杭というのは、土地と土地の境界や、土地と道路との境界を

示すために打ち込む杭のこと。土地家屋調査士(土地や家屋の調査や測量を行う専門家)の協会らしい外見といえるだろう。

セメント協会の「セメタロー」は、一見モノクロかと思ってしまうが、まさにセメント協会のキャラクターだとわかれば確かにこれ以外の色はないんじゃないかというハマリ具合。なんだか気付いた途端にオシャレに見えてくるような気がする。

ぐんケンくん(群馬県建設業協会)

群馬県内の工業高校を卒業し、群馬県建設業協会会員会社に就職した。早く会社の仕事をおぼえ、一人前の技術者になり、経験を積んで、道路やビルの建設を担当するのが希望。



平成26年に誕生以来、建設業の仕事や魅力をわかりやすく、若者を引きつける活動を展開中。「ゆるキャラグランプリ」に参加したり、新人研修会や道路の開通式などさまざまな場面に登場している。

なんと「ぐんケン体操」という音楽付きの体操もあり、DVDにもなっている

2017年の秋から行った公募により、応募者223名、374作品の中から2018年3月にグランプリに選出され、デビュー。

なまリンちゃん

(全国生コンクリート工業組合連合会・全国生コンクリート協同組合連合会) 働き者のイメージを持つアリとミキサー車のドラム(回転する部分)がモチーフ。名前は、生コンの“なま”とアリの“リ”の語感を合わせたもの。



2018年度からぬいぐるみを4500個製作し、全組合員工場に配布している。2019年4月から、1年間にわたり毎月1種類ずつ季節の風物を背景にしたイラストをホームページで公開中。さらに生コン業界が推進しているコンクリートによる道路舗装をPRする動画にもぬいぐるみで主演。2019年5月からfacebookやYouTubeで公開中だ。

きょうかい君・あいちゃん

(愛知県土地家屋調査士会) 「愛知県土地家屋調査士会」=「土地家屋調査士」のイメージを持ってもらえるような願いを込めて誕生したマスコット。境界杭の設置を推進し、お隣同士の信頼関係を築けるようにPR中。



「きょうかい君」は、知識・知見に基づいた正確な位置に境界杭を設置する土地家屋調査士の男子。真面目で打たれ強く、正義の心を持っている。落ち着きがあり、大事なものを守る力強さを秘めているが、ちょっと頑固な面もあるらしい。

「あいちゃん」は、おおらかで友好的、愛情と思いやりに満ちた、優しい女の子だ。お隣同士の信頼関係を築いて、境界にまつわる争いごとのない世の中にしたいたいと願っている。

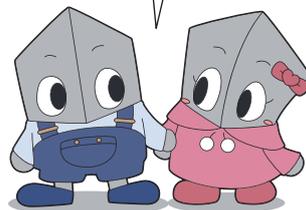
2012年から「ゆるキャラグランプリ」にエントリーし、土地家屋調査士をPR。ちなみに今年の順位は、ご当地部門で124位だった。

セメタロー(セメント協会)

セメントが「安全で快適な生活と循環型社会の構築になくてはならない材料」ということを知らせるために活動中。



セメタローは、ある時は子ども時代にワープすることがある。そのときは「ちびセメ」になって、友だちの「コンちゃん」と活動をする。



Points Of View

プロフに建設のこだわりアリ

見た目とともに、ゆるキャラで面白いのがプロフィール。外見だけではわからない奥深いく？設定が隠されていて、思わず「なるほど」とうなずいてしまうものも多い。

たとえば、高知県建設業協会の「まもるくん」彼は父親が建設業で働いており、だから建設業に強いあこがれを抱いている。「建設現場で働く人を見るたびにヒーローを見るように興奮してしまう」そうだ。そして「将来は自分の手で高知県を守るヒーローのような存在

になりたいと思っている」という。実に熱い。さすが坂本龍馬を輩出した県の子ども(小学1年生)だ。

千葉県建設業協会の「建者くん」もプロフィール型。彼はさまざまなスキル(2級土木施工管理技士や2級建築施工管理技士など)を取得して「建者」にレベルアップ・ジョブチェンジした若者だ。災害時には「ディザスターベスト(災害用ピブス)」を装備することで「防災の建者」となり復旧・復興に活躍するという。外見がビクセルア

ト(ドット絵)になっており、ゲームっぽい設定を外見からも醸し出している点も面白い。

渋いのは横浜建設業協会の「横浜ケンジロー」。彼の好物は、外見のアシカらしく「魚」なのだが、だからこそ「骨」の大切さ、つまり建物の「骨組」の大切さ(！)を知っているのだという。

日本測量協会などが制定した「測量の日」のキャラクター「マッピーくん」は、誕生日が「測量の日」

の6月3日というのがポイント。生まれた年も制定した年である「平成元年」だ。まさに「測量の日」を表すプロフィールを持っている(ちなみに、外見上でも空飛ぶ蹴球のように彼が乗っているのは地図だったりする)。

今後もゆるキャラ集めます！

さて、今回は建設関連団体をメインにしたが、今後、BRIDGEでは建設に関わる企業や行政のキャ

クターも特集していくつもりだ。たとえば国土交通省の前身である建設省時代には、昆虫のハンミョウをモチーフにした「こっぴだヨウ平」という(？)のキャラクターだっている。引き続き調査していくので、乞うご期待。

まもるくん(高知県建設業協会)

地元高知と坂本龍馬をこよなく愛する小学1年生。建設業で働く父親の影響で建設業に強いあこがれを抱き、大きくなったら建設マンになりたいと思っている。なので、建設現場で働く人を見るたびにヒーローを見るように興奮してしまう。



地震や台風が嫌いで、ちょっぴり怖いだから、それらに怖がらないで済むようにとの思いから建設マンになりたいと思っている。そして将来は、自分の手で高知県を守るヒーローのような存在になりたい。

ヘルメットの耳はお母さんが付けてくれたもので、お気に入り。お母さんの「大きな耳でたくさんのお話を吸収し、立派に成長してほしい」という願いがこもっている。

横浜ケンジロー(横浜建設業協会)

横浜で生まれ育った賢いアーキテクト・アシカで、土木工事、建築工事なんでも得意。睡に輝く が特徴で、基調カラーは、安心・安全と横浜をイメージするブルーだ。



誕生日は協会の創立記念日と同じ10月8日。好きなものは魚(丸ごと食べる)で、だから骨(組)の大切さを知っているという。

嫌いなものは地震で、夢は住み良いまちづくりを目指して皆さんで喜んでもらうこと。「いつか表彰されたいと思っている」そうだ。

建者くん(千葉県建設業協会)

さまざまなスキル(2級土木施工管理技士や2級建築施工管理技士など)を取得して「建者」にレベルアップ・ジョブチェンジした若者。「建者」は2018年に千葉県建設業協会が考え、登録商標を取得したもので、2019年にビクセルアート(ドット絵)の新キャラとして登場したばかり。



新キャラなので、さまざまな展開はこれから。千葉県建設協会のホームページでは、成長の過程などを今後アップしていく予定だという。

災害時には「ディザスターベスト(災害用ピブス)」を装備することで「防災の建者」となり復旧・復興に活躍する。ちなみに「土木の建者」になるときは「シビルの野帳」、「建築の建者」になるときは「アーキの図面」などの道具を駆使する。



マッピーくん(「測量の日」実行委員会)

日本測量協会などが制定した「測量の日」のキャラクター。地図と測量に関するPR、普及・啓発活動を使命にしている。

誕生日は、「測量の日」の制定日である平成元年6月3日。さまざまな測量機器を使い、最近では3次元測量などを行う仕事をPRしているだけあって「科学大好き、好奇心イッパイ」だという。



...Postscript 追記

まちで目にするキャラクター

今回のゆるキャラ特集では建設関連の団体をメインにキャラクターを紹介したが、それぞれの企業でも愛すべきキャラクターたちが登場している。

まったくゆるキャラではないが、大手ゼネコンの奥村組が展開する「奥村くみ」は、きっと読者の中にも見たことのある人がいるだろう。そのキャラクターはなんとリアルな人物、女優さんが演じている。彼女のプロフィールは子どもの頃から、とにかく建設が大好き！好奇心と行動力がヘルメットをかぶったようなキャラクター、だという。そして、たまたま、かなりのおっちょこちょい。うん、かわいい！……コホン。

登場以来好評を呼び、奥村組のホームページで公開している連続ドラマCM『建設LOVE奥村くみ』は今や第2シーズン、全7話まで公開されており、建設の魅力を伝えている。

もう一つ注目のキャラクターは、やはり大手ゼネコンの熊谷組が誇る「くま所長」だ。「熊谷組なんでも研究所」KUMAGAI NANDEMO LABORATORYの所長でお客様や社員から声がかかれば、世界中どこへでも飛んでいき、皆様のお手伝いをするという。実際にマントで空を飛び、手に持つ魔法のスティックでいろいろな姿に変身できるのだそうだ。

一方で、安全第一のためどんなときもヘルメットを被り、工事の完成などお祝いの時に着る法被(はっぴ)がトレードマークという汎用性も兼ね備えている。同社のイベントに登場するだけでなく、仮面にも大きなイラストであしらわれていることが多く、目にする機会が多い。



Near Future 建設業がつくる近未来

国際ロボット展にて、建設ロボなどをレポート

建設の世界は、最新技術の世界でもある。ドローンによる測量や3次元データ化などは当たり前、今では社会インフラの損傷具合などをカメラとAIを使って調べる技術や、作業着として装着する支援用ロボットスーツなどが実現化している。

先日の12月18～21日に東京ビッグサイトで開かれた「2019国際ロボット展」にも建設関連の最新技術が展示され、関係者の注目を集めた。

今回まず紹介するのは、建機のアームなどに取り付けることで作業員が振動を実際に感じることのできる触覚技術。東北大学で研究しており、現場で実験している最中だ。

同じく東北大学が開発する回転球殻を持つマルチコプターは、ドローン(この場合はマルチコプター)を守る、回転式の球状の殻がポイント。狭く操作の難しい機体などの点検で真価を発揮する。

ほか、アシストスーツは各社が展示。遠隔操作ロボットでは、建設現場というよりも現場事務所での使用が検討されていた。



振動センサーを建機のアームに取り付け、受信機を操縦者の手に付けることで、細かな振動などを操縦者が感じることが出来る。特に遠隔操作の際に、繊細な作業が可能になる。



アシストスーツ各種。主に医療や農業分野で使われているものだが、建設分野でも採用を考へる企業が増えている。



検査の難しい橋梁の狭い場所を調べるドローン。回転して衝撃を逃がす球状の殻を持ち、表面を近接撮影することが出来る。



遠隔操作ロボット「ugo」。遠隔操作で移動できるだけでなく、ロボットアームで繊細な手作業も可能。AIによって作業を学習することもできる。遠隔地の建設現場で「現場事務所と本社間で指示のやり取りなどができないか」と導入を検討する会社もあった。

Editor's Note 編集後記

2019年最後のテーマは「ゆるキャラ」。このところろまんなどをテーマにしていましたが、年の最後に少しほっこりする内容を選んでみました。奇しくも、編集部のある長野県では「ゆるキャラグランプリ2019」が1月に開かれ、ご当地キャラのアルカがグランプリに輝いたばかり。残念ながら建設関連のキャラクターが優勝することはできませんが、

たが、もしかしら今後、チャンスがあるかもしれません。「ゆるキャラ」の歴史は古く、単語として登録商標されたのは2004年のこと。1990年に流行った地方博ブームの中で登場したマスコットたちが原点なんだとか。なんとも思の長い概念です。本日は「郷土愛に満ちている」などの細かい条件があって、着ぐるみ化していることなどが必要なのだそ

うですが、今号ではゆるいキャラクターたちをわかりやすさ優先で「ゆるキャラ」と表記しました。もし「違うぞ!」という場合はお許しを。さて、年の最後にほっこり、と書いておきながら、また台風の話になってしまいましたが、今回の台風19号被害において、即座に応急復旧に駆け付け、復旧・復興を支えたのは地域の建設業でした。つまり、地域防災力の

維持・向上に、地域建設業は欠かせない。その意味で「ご当地キャラ」としてのゆるキャラをこの機会に見直してみることは、社会インフラの重要性を振り返ると同様に大切なことだと思った。……というのが今回の裏テーマにありました。そうした大切なことを、真面目に面倒ではなく、ゆるく楽しく知ることができたら、そうしたことを「伝える」

役目を、今回紹介したキャラクターたちが背負っていると思うと、なんだかゆるキャラのはずなのに格好良く見えてくるから不思議です。記事の中でも書いたとおり、今回は各地の建設関連団体のキャラクターたちを集めました。今後は各地の行政や企業のキャラクターも特集予定です。ご期待。 (酒井真一)

BRIDGE
新 建 新 聞
2019年12月25日(水) 第017号
編集長:竹内英樹
編集委員:酒井真一
取材スタッフ:
竹内英樹、竹花彩香、栗原真良、小池裕之、小澤昇一、酒井真一
アートディレクション&デザイン:酒井真一
デザイン:
田中雄二、酒井真一、栗原真樹、酒井真一
ご意見、ご感想をお待ちしています。
〒380-8622 長野県高井町686-8
TEL: 026-234-1115
http://www.shinkenpress-digital.com/
編集部では、中学生記者・高校生記者を募集しています。
「やってみたい!」という方は、副編集長・酒井真一(sakai@shinkenpress.co.jp)または編集長・酒井真一(sakai@shinkenpress.co.jp)までお問い合わせください。